



NPO 法人 新エネルギーを すすめる宝塚の会

No.45

2023年10月30日
理事長：橋本成隆
〒665-0022
宝塚市野上1丁目1-8
(Tel: 0797-69-8800)
<https://rept.or.jp>

今年の夏は本当に暑い夏でした。気象庁の発表では今年の6月～8月にかけての平均気温は北・東・西日本でかなり高くなり、日本の平均気温は1898年以降で夏として最も高くなったとのこと。「異常気象分析検討会」の報道発表によると、「7月後半以降の顕著な高温の主要因」としては「日本付近で上層の亜熱帯ジェット気流が北偏して暖かい高気圧に覆われるとともに、下層の太平洋高気圧の張り出しが記録的に強まったこと」が考えられ、さらに「持続的な温暖化傾向に伴う全球的な高温傾向の影響が加わった」と考えられるとのこと。この暑さの影響もあって今年の宝塚西谷地区でのお米や黒豆の収穫量が例年より少なめと聞いており、気候変動の影響をますます身近に感じた夏でした。

このような暑い夏にあっても粛々と今年度の事業計画をすすめて参りました。一つは、確からしい事実（データ）に基づいて適切なプロセスで考える「ファクトフルネス講座」、もう一つは、勉強会などの参加者層の幅を広げるべく、親子で参加できる里山の自然を体験できるイベントです。まずはこの2つの取り組みからご報告します。



◆「ファクトフルネス講座」のご報告◆

「ファクトフルネス講座」は宝塚市の再生可能エネルギー審議会で審議委員もされている京都大学の特任教授 安田 陽 先生を講師にお招きした講座です。

インターネットやメディアには「ホント?」と思う情報があふれています。例えば「再生可能エネルギーだけでは日本の産業に必要な電力を賄えない」、「再エネは不安定なのでバックアップ電源として旧式の化石燃料発電設備が必須」などなど。これらのもっともらしいナラティブ（物語）は科学的に根拠があるのか、ファクトフルネスに考える力をつける「安田塾」です。初めて開催する今年は、7月、9月、10月の3回に分けて実施し、一人1,000円（学割500円）と有償の講座として開催しましたが、延べ64人の方に参加頂きました。

参加頂いた皆さんのアンケートでは、ほぼ全員が「大変良かった」、「良かった」との高評価でした。アンケートのコメント欄にも「科学は不可実性をふくんでいる、とはまさに目からウロコ」「すごいためになりました。自分がいままで書いてきたのは作文でしかないと思いました」「インターネットでゴミを拾わないように注意します」など、これまでの考え方や習慣に新しい気付きのきっかけにな

+ 本講座で学んで頂きたいこと 再掲



2

- エネルギー問題に関するファクト・基礎知識
- ただし、知識の詰め込みではなく…
 - 情報収集能力：適切な情報源へのアクセス
 - 情報処理能力：論理的・理性的な思考
 - 情報発信能力：フェアな議論、健全な批判精神

も是非習得して下さい。



- 非論理的・非理性的・視野狭窄的・扇情的な言説に惑わされず、自分自身の確固とした意見を形成するためのトレーニング

ったようで主催側としては嬉しい限りです。講座は一方通行の講義だけでなく面白い演習も組み入れています。例えば、インターネットからの情報検索を「一般用語（電力 足りない）」と「専門用語（供給信頼度）」とでそれぞれ検索し参加者で共有しました。前者では根拠の乏しい情報が検索されましたが、後者では参考文献などが明示された情報にヒット。専門用語を忌避せずわからなくてもいいので「コレクション」し情報検索時に使ってみる大切さを実感した次第です。分からないことや不安なことがあるとつい「わかりやすい話」「勇ましい話」にのってしまいがちです。分からないことを温めておく度量が必要なことも大きな気づきでした。他にもたくさんの学びがあり（消化不良も多々ありますが・・・）とても紹介しきれません。安田先生のご都合がつけば次年度以降も継続して開催する予定でし、これまで少なかった30代以下の参加者を増やすような取組みも併せてすすめたいと考えています。次年度の計画ができ次第案内いたしますので是非ご参加ください。（橋本成隆）



◆「宝の森」里山体験イベントのご報告 ◆

これまで REPT で開催してきた勉強会やイベントでは子供や子供連れのご家族、特に 30 才代以下の若い世代の参加が少ない状況でした。これからの未来を作っていく若い市民の方々とも活動をすすめたいと思い、子供やその家族、若い世代でも「楽しく」参加でき毎年継続する体験型イベントとして企画したのが、「宝の森」里山体験イベントです。これまでに今年の7月29日と10月9日の2回開催し、次回は来年2024年1月27日に予定しています。参加費は1家族（世帯）＝3千円/回の有償イベントで、小学生や未就学児の子供さん家族など延べ9家族（世帯）の参加がありました。体験メニューのメインは、長らく使われていない里山での柴刈りでたきぎを集め、火花を飛ばすメタルマッチで火を起し、焚火台で各自持ち寄ったおにぎりやウインナーや野菜、マシュマロなどを焼いて食べる「焚火メシ」です。食後は思い思いに山の中ですごします。山の中で焚火で焼いた美味しいごはんをたべて、新鮮な空気すつて鳥の声を聴きながら「里山を体験」すると元気が出てくるので不思議です。他には宝塚自然の家に向いて「ハッチョウトンボ」を観察したり、近くの栗山での栗拾いや薪割りも体験しました。この体験イベントの進行は宝塚市内で大人も子供も学べる科学実験教室を開いておられる「ブレインアカデミー」に協力頂いており、里山の状況や参加者の意向をききながら一緒に体験メニューを開発中です。これからは里山の一部を整備してキャンプできるよう子供たちと「開拓」する予定。里山で楽しく過ごしなが、数十年前まではエネルギーの自給自足が当たり前だった生活を体験し、人と自然が調和した豊かな暮らしに気付くきっかけになればと願っています。もちろんどなたでも楽しめるメニューですので、是非ご参加頂き山の中で里山を体験し元気になってください！（橋本成隆）



山の中で焚火で焼いた美味しいごはんをたべて、新鮮な空気すつて鳥の声を聴きながら「里山を体験」すると元気が出てくるので不思議です。他には宝塚自然の家に向いて「ハッチョウトンボ」を観察したり、近くの栗山での栗拾いや薪割りも体験しました。この体験イベントの進行は宝塚市内で大人も子供も学べる科学実験教室を開いておられる「ブレインアカデミー」に協力頂いており、里山の状況や参加者の意向をききながら一緒に体験メニューを開発中です。これからは里山の一部を整備してキャンプできるよう子供たちと「開拓」する予定。里山で楽しく過ごしなが、数十年前まではエネルギーの自給自足が当たり前だった生活を体験し、人と自然が調和した豊かな暮らしに気付くきっかけになればと願っています。もちろんどなたでも楽しめるメニューですので、是非ご参加頂き山の中で里山を体験し元気になってください！（橋本成隆）



◆吹田市民活動「アジェンダ 21 すいた エネルギー部会」のご報告 ◆

先日の10月15日（日）『アジェンダすいた』が開催したワークショップ「地域で太陽光発電を増やすには？」に他地域の先進事例として新エネルギーをすすめる宝塚の会として発表しました。

15分という短い時間ではなかなか上手く伝え切ることができませんでしたが、資金調達方法やソーラーシェアリングの許可方法など積極的な質問があり、『アジェンダすいた』というグループの積極性を感じたワークショップでした。参加人数も20名を越えて、会議室がいっぱいの中熱い議論が多くでていました。

宝塚市でも2012年から5回にわけて開催された「再生可能エネルギー推進」のワークショップの時の熱気を懐かしく思った次第です。宝塚市でも2012年に再エネ推進課ができ、ワークショップをはじめ様々な方法で市民協働での活動を目指していましたが、年々予算がなくなると同時にトーンダウン。最近では再エネの言葉を聞く機会も少なくなってきたような気がします。翻って私たちの活動も発足当初から比べるとかなりトーンダウンしており、行政の責任ばかりを問うのではなく、市民からの呼びかけをもっとする必要性を感じています。折しも、先進事例のゲストスピーカーと呼ばれたにも関わらず、『アジェンダすいた』のパワーに押されて反対に勉強になった気がします。私どもとは別の先進事例としてお話をされた楠正志さんの『市民エネルギー生駒』は、設立こそ私たちNPO設立の後なのですがまさに市民と行政の協業を実践されている団体で、私たち『新エネルギーをすすめる宝塚の会』のお手本になる活動をされています。2016年に第4回グッドライフアワード環境大臣賞を受賞されたことを手始めに、新エネルギー財団会長賞、第10回グッドライフアワード環境大臣賞の受書。賞を取ることで行政へむけてのメッセージが伝わり、行政がそれに応えていくというスタイルは私たちがお手本にしてもいい活動と考えます。（西田光彦）



◆ワタシのミライ 大阪 9/18 アクションに参加しました◆

「脱炭素社会への公正な移行を急ぎ、2050年までに自然エネルギー100%で豊かに暮らせる社会を創る」ことを目指す市民がつながり変化を広げていく新しいムーブメント：「ワタシのミライ」が9月18日全国行動を呼びかけ、私たちは「ワタシのミライ 大阪」が企画した中之島中央公会堂前のアクションに参加しました。その他、身近なところでは神戸製鋼石炭火力発電所の周辺で神戸の仲間がアクションを起こしました。



公会堂の前に集まったのは、地球温暖化による気候危機を憂える各世代。若い人たちは「ワタシのミライ」に危機感を持ち切実な思いをアピールしてくれました。'元'若者も自分たちが使ってきたエネルギーの負の遺産を減らして、子孫が安心して暮らせる社会を残さねばとの決意を表明。今すぐできることからやっけていく、そしてそれを拡げて行って持続可能な社会を創っていこう！との共通の思いを確認しました。その後大阪市役所前に移動し、道行く人々にアピール。これから粘り強く、しかし

急がなくてはならないアクション、REPTももっと多くの方々に伝える努力をしていかねばと思ったことでした。会員のKさんも来られており、久々の出会いを喜び合いました。「ワタシのミライ」で検索してみてくださいね。(田中章子)



◆ (REPT 会員 安井さま) <我が家の断熱リフォーム報告> ◆

私は 2000 年に豊中市よりこの地に移住してきました。マンションの前は二つの池、後ろは急な山です。入居当初より二重ガラス窓への改装の勧誘はありました。当時も少し関心を持ちました。しかし、<相当の費用が掛かる> <工事が鬱陶しい> ことから改装をしませんでした。部屋は3階の最上階、東端にあり、夏は東と南より日光が入りとても暑い状態です。屋上からの断熱が必要と考えていました。ところが、「新エネルギーをすすめる会」の今年の1月の勉強会で、「日本家屋では窓からの熱の出入りの影響が大変大きい構造であり、ここの断熱が室温コントロール上に最重要」であることを学びました。その際、政府が断熱リフォーム補助金(費用の三分の一)を出しているという情報を知りました。そこで直ちに業者に見積を出してもらいました。内容は窓16枚(大8、中6、小2)です。改装は4月上旬の一日で済みました。窓が多いので、普通は2、3日かかるとのことですが、3組のチームが来ました。窓の大きさは事前にレーザーで計測され、窓は工場で製造し、当日は大工さんがそれを、内側からはめるだけでした。

なお、費用は167万円(補助金521,000円)でした。効果についてですが、今年の夏は歴史的な酷暑(地球沸騰化の結果)であったこともあり、期待ほどではありませんでした。しかし、南向きのリビングは幾分か気温が抑えられました。意外であったのは新しい窓はフレーム、レールが化成品であり、断熱性が高く、大変軽い、そして、気密性は大変高いことです。ゆえに、エアコンの効果は大変大きいものになりました。私とすれば、今年の冬の冷温に対して、どれ位の効果を発揮するかを期待しています。(宝塚市売布 安井國雄)



◆2023年ソーラーシェアリング市民農園のさつまいも収穫終わりました!◆

10月21日(土)、まずまずなお天気の中無事にソーラーシェアリング市民農園のさつまいも収穫を終えました。2016年から取り組んでいるさつまいも栽培ですが、今年は今まで以上の高温少雨、どうなるかとびくびくしていました。蓋を開けてみればなんのことはない、9区画で440kg採れる豊作です。人数がそろわないとなかなか辛い収穫量ですが、近畿大学、龍谷大学から学生たちが10人ずつ来てくれて大助かりです。毎年来ている学生がいないのは、教授が学年を決めて連れてきているからです。近畿大学の学生の一人がカメラマン役としてたくさん写真を撮っていました。聞けば、昨年ここで収穫をしていたそうで、今年は4年生なので撮



影班として参加しているのだとか。月末に開かれるイベントで焼き芋をするらしく、「芋も欲しかったし」と笑っていました。

参加の形を変えてでも関わってくれるのはうれしいですね！そして、春には大学生のお兄さんの後ろをついて歩いていた女の子が、秋にはお姉さんたちとおしゃべりするほうが楽しくなったようで、畑女子会のように打ち解けて話していました。背も伸びておしゃまさんになる年齢のこどもの変化を見ることができた一瞬でした。なんども会うからこそわかる、来年にはまた違うこどもや学生と作業することになるので、こういった一期一会的な出会いがあるのも多くの人に関わっているプロジェクトだからでしょう。

毎年同じことをやっているように見えて、実は少しずつ変化しています。今年も採れた芋の一部を焼酎原料（宝塚芋人）として九州に送りましたが、140 kg、160 kgと送る量も増えてきて、今年は190 kg。計測して箱に詰めて送るまでを北部西谷地区でおこないました。



また、環境学習は絶対に欠かせないもので、なぜこんな取組をするのかを話します。今回は近畿大学、龍谷大学の先生方の担当です。この話を特に熱心に聞いておられた参加者のうちのおひとり、三人のお子さんとともに来てくださった方ですが、鳥取の農学部出身だそうで学生の時は農家研修にも行っていたとか。どうりで芋の収穫もなんか手馴れておいででした！一番小さなお子さんはまだ三か月の赤ちゃんで、家族がかわるがわる抱っこしていましたが、「こんな屋外の空気に触れさせるのもよいと思って」とにこやかに話してくれました。農業のこと

についていろいろと話してくださり、こういった方々がソーラーシェアリング市民農園に集うこと自体が一番うれしいことなのです。

畑の作業が終わったからといって今年の活動が終わりではありません。12月3日にはコープこうべ第1地区本部にて取組の報告会が開かれます。同じことをしていても、来年にはこういったこともしたいと提案が出る場合があります。今年それが尼崎の環境団体と農園がある地元の農事実行組合が連携した米作りに発展しました。報告会ではこの話も聞くことができます。ソーラーシェアリングがつなげる輪は、人を変え形を変えていろんなところにつながっています。今後に乞うご期待！

(株)宝塚すみれ発電 代表取締役 井上保子



◆ (勉強会の予告) 2024年1月20日 身近な薪炭林を活用した脱炭素 ◆

毎年「宝塚市立男女共同参画センター・エル」が主催している「市民企画支援事業」があり、REPTもこの支援を受けた勉強会を開催してきました。今回は「環境にやさしいまちづくりを目指す 身近な薪炭林を活用した脱炭素」というテーマの勉強会を開催予定です。詳細はこれから検討しますが、宝塚市の西谷地区にある薪炭林の活用についてです。この薪炭林の多くは長らく放置され活用されていけませんので、この遊休薪炭林を活用したまちづくりをすすめる上で必要な取組みなどを学ぶ機会にしたいと思っています。

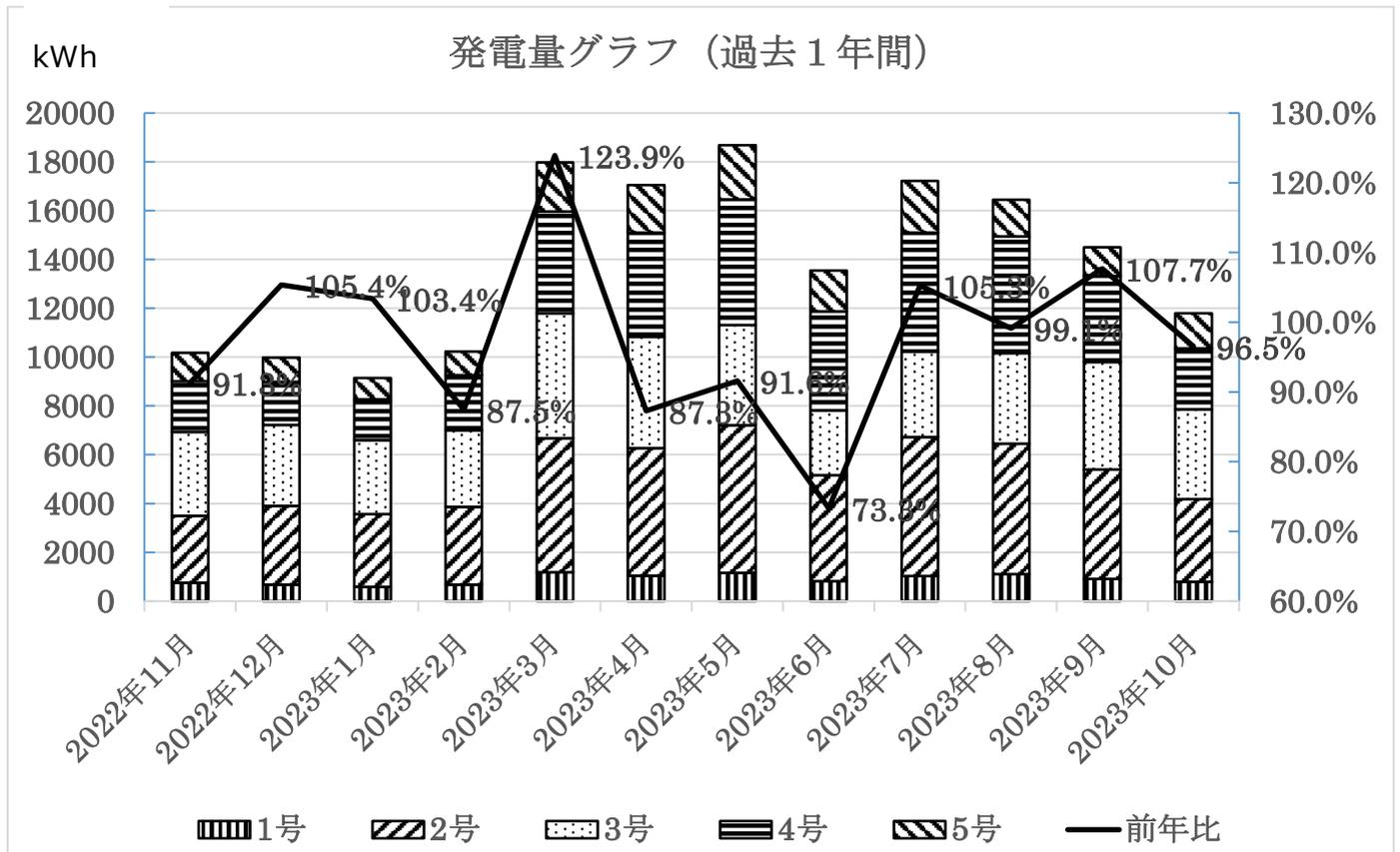
講師には、三田の温泉施設に木質バイオマスボイラーを導入されるなど北摂地域で木質バイオマスをエネルギーに変える取り組みを提案し事業化されている、篠田株式会社 日本アジア LCA 研究所 主

任の柳樂 行宏さんをお願いする予定です。バイオマス利用とはどういうことか？北摂地域での事例や、宝塚市内での可能性について学ぶ機会にする予定です。是非今のうちにご予定ください。皆様のご参加お待ちしております。（橋本成隆）



◆ 発電グラフ（2023年10月27日時点） ◆

前号のニュース以降（7月以降）も順調に発電しています。尚、2023年8月と9月については、集計装置の不備の為グラフの値が実際の発電量を下回る値となっています。



最新の詳しい発電情報は、宝塚すみれ発電のホームページ（<https://sumire.bona.jp/>）左記 QR コード）にアクセス頂き、上部メニューの「発電所情報」からご確認いただけます。

（井上 正弘）



お知らせ

●お願い ニュースの返送が増えています。お引越先や送付停止のご連絡をお願いします。また、長い間会費未納の方へのニュース送付を停止させていただきますこと、ご了承ください。